

暮らしのデザイン思想が生み出した 次世代型ソーシャルプログラム

&EARTH教室

Photographs by Takuya Suzuki Text by Takashi Tsuchida



港区立エコプラザが
プログラム内容に共鳴

エコに関する優れたコミュニケーション活動を取り上げる港区立エコプラザ主催の「エココミュニケーションセミナー」。その第2回テーマに選ばれたのが、「三井不動産レジデンシャルが2010年から手掛けている「&EARTH教室」だ。10月23日午後17時にスタートした活動報告会には、区内外の教育関係者が招待され、さらにプロジェクトの応援団として5名のパネリストが来場。活動の詳細について主催者からの説明を受けた後、主催者と応援団によるトークセッションが繰り広げられた。「&EARTH教室」とは、次世代を担う子どもたちに向けた環境教育プログラムだ。その活動目的は、三井不動産グループが掲げる「経年優位」の理念へと通じる。「住まいも人々の成長とともにあります。街に馴染み、緑が茂り、コミュニティが成熟していくことで、建物が時とともに「優位」し時代を繋いでいく。そのために我々は、ただの居室空間ではなく、そこに住まう人々のコミュニケーションがデザインされた建物の提供を目指しているのです」

モデレーターを務めた三井不動産レジデンシャルの川路武さんが、セミナー冒頭でプロジェクトの発端をこう明かした。子ども



「企業×NPO×大学生」の 新形態が環境教育に シナジー効果をもたらす

たちが地域コミュニティの大切さや、自宅でするエコの工夫、自然エネルギーや森林資源の有効利用へと関心を示し、身近にできる取り組みを楽しみながら実践する。それを家族や地域の人たちと共有することで、幸せの連鎖が生まれるのだ。その成果において「&EARTH教室」は、子どもたちを通じて、活動効果が地域に波及していくことを目指す。それが、三井不動産レジデンシャルが目指すコミュニケーションデザインの本質だからだ。

さらに注目すべきは、プロジェクトの運営形態にある。「&EARTH教室」は、三井不動産レジデンシャル主催のもと、企画・制作をNPO法人「BeGood Cafe」に依頼、実施運営には大学生ボランティアが寄与。その三者が同じ立場、同じ目線に立ち、プログラムをまったく白紙の状態から構築しているのだ。大学生は半期ごとに10名程度が参加、現在は第4期生が活躍する。

この形態には三者ともにメリットがあった。持続可能な社会の実現を目指して活動する「BeGood Cafe」は環境活動の知見を発揮する機会が得られ、大学生にとっては社会活動を通じた実践スキル習得のチャンスとなった。そして三井不動産レジデンシャルは、両者の声を通じて新たな気づきを得られたという。

「&EARTH教室」のプログラムの主軸は手作りの紙芝居だ。キヤラクターもすべて自分たちで考

子どもたちを惹き付ける アイデアがいっぱい!

紙芝居の内容に即した問いかけに、子どもたちの目が輝く。両手に旗を持たせて回答を促し、双方向のやりとりを重ねながら、ストーリーを展開していくのだ。ほかに「&EARTH教室」では教材およびスクラッチシートを用意。このスクラッチシートには31種類のエコチャレンジが隠れていて、子どもたちは一日ごとに項目ひとつを削り、課題に挑戦する。イベントでモチベーションを高めた子どもたちが、家に帰ってからその気持ちを忘れないようにと知恵を絞ったという。



2012年5月。パークシティ南浦和にて開催。



左上/BeGoodCafe鶴洲雄大さん。左下/環境問題を語った白井貴子さん。上/きょうちゃんとななちゃん(ともに第4期生ボランティア)。



右/モデレーターとして壇上でマイクを持つ川路武さん。上/5人の応援団。右から順に、「いたばしお母さん学校」代表、岡本侑子さん。初代神奈川県環境大使を務めたミュージシャンの白井貴子さん。『NPO法人環境文明21』共同代表、藤村コノエさん。『NPO法人ごかんたいそう』代表、全田和也さん。『NPO法人ゆいツール開発工房』代表、山本かおりさん。

人と地球がともに豊かになる社会をめざして
&EARTH



すまいとくらしの未来へ

三井不動産レジデンシャル